

ティーチング・ステートメント

所属 総合教育センター

名前 久保輝幸

作成日 2024.03.31

【責任】

今年度は、「社会力演習」2クラス、「キャリアデザイン」3クラス、「日本語」1クラス、「ICT リテラシー」1クラスを担当しました。私は、担当教員が不足しがちな科目にできるかぎり対応することが期待されている。また担当科目「社会力演習」では、学生の生活と学習を支援し、保証人からの問い合わせにも対応するなど学生支援の面でも働きが期待されている。また、キャリア支援部会では、企業の採用担当者への挨拶、インターン先の受入れ担当者を訪問、合宿への引率などを行った。国際交流事業でも、通訳などで手伝い、交換留学生の受け入れ準備を行った。さらに、留学生の生活や学習の支援、奨学金申請の支援も行った。

次年度は、今年度の担当授業から「ICT リテラシー」が外れ、「社会力演習」1クラス、「キャリアデザイン」1クラス、「日本語」2クラス、「中国語」2クラスのほか、短期留学の引率にあたる「国際理解」3クラス、「環境科学」を担当する。

【理念】

教育において「自律した人材を育成する」を核心的理念としている。

一般教養科目（キャリアデザイン・社会力演習など）と言語教育科目（中国語教育および日本語教育）の2分野について、以下にそれぞれの理念を提示する。

- ・一般教養科目では、学生の将来における就職活動や社会人としての生活を送りやすくさせるため、規律を守る習慣をつけさせる。
- ・一般教養科目では、論理的、批判的思考を培い、自ら主体的に調べ、考える能力と習慣を身につけさせる。
- ・言語教育科目では、未知の外国や言語に興味を抱かせ、学生に国際社会の一員であることを自覚させ、その深化に必要な言語能力や異文化理解を自主的に学ぶように導く。
- ・言語教育科目では、最新の言語教育ツールを積極的に試し、新しい外国語教育を実現する。

【方針・方法】

一般教養科目

- ・学生が規律ある学生生活が維持できるようにさせる
⇒授業の開始時間は厳守しており、遅刻も厳しく管理している
- ・時間通りに行動する学生が正当に評価されるようにさせる
⇒授業時間内に行う課題を設定し、出欠席が成績に間接的に反映できるようにする
- ・批判的思考を培う
⇒学生が「当たり前」として答える「常識」に対し教員が反論を示すことで、多様な視点を認め、批判を聞き入れる寛容さをもつように導く
- ・資料（根拠）を探し、文章を正確に読む力を養う
⇒学生に資料の探し方とその信頼性の判断方法を教え、学生自身の興味や関心にそって収集した資料を音読させたうえで、説明させることで、理解度を測る
- ・授業内容の充実を図る
⇒専門外の授業をより充実させるため、教員自身が学び授業に備えるようにする

言語教育科目

- ・計画的な学習を身につけさせる（反転学習の導入を試みる）。
 - ⇒文法解説などの論理面は録画教材を活用し、いつでも視聴できる環境を整える。
 - ⇒文法理解や語彙力は、小テストを2回に1回の頻度でやっている。
- ・電子デバイスでの言語入力を習得させる
 - ⇒電子デバイスでの入力を習得させる（手書きはあまり要求しない）。
 - ⇒Wordの校正機能を活用するなどの方法を学ばせる。
- ・適度な学習負荷をかける
 - ⇒小テストで、準備してこないと落第するようにする。
- ・言語の本質は音声にあること、表記は音声の代替手段であることを理解させる
 - ⇒Word音声評価を使う。外国語教育では聞き取りと発音を重視している

【成果・評価】

一般教養科目

- ・遅刻を許さないなどの規律を守らせる授業は、うまく展開できた。1限で数分だけ遅刻する学生（とくに2年生）は、ほぼいない状態になった。
- ・批判的思考などの習得は、学生がそもそも活字資料を探して読まないことから、思考の段階に移る前の問題が大きいことに気づきました。

言語教育科目

- ・小テストを頻繁に行うことで計画的な学習を習慣化させることは成功した。
- ・電子デバイスで言語を入力させる教育は、Google翻訳などを使い回答しているケースが散見され、あまりうまくいかなかった。

【目標】

一般教養科目

- ・批判的思考などの習得を、本学の学生の質にあわせた形式で展開できるように、楠見孝の研究に基づいて、具体的な方策をつくり、次年度に実践する。
- ・社会力演習の授業を『思考力改善ドリル』（植原亮）をもとに展開し、批判的読解を含む批判的思考の教育計画を今年度中に完成させたい・
- ・専門外の授業を担当しているため、科目に対しての理解や知識を深めなければならない。今年度から継続して教える科目については、授業内容をより充実させていく。
- ・言語教育においては、引き続き最新の言語教育ツールを積極的に試し、新しい外国語教育を実現する。これについては、2～3年間で新しい授業スタイルを確立したい。

言語教育科目

- ・25年度では中国語を英語のカウンターパートとして設置することが議論されている。実際にどのように展開するか、英語科教員との連携が重要になるので、英語科教員とのコミュニケーションを重視して1年間を過ごしたい。
- ・昨年秋にMS Teams for schoolで無償公開された朗読自動評価システムがある。こうしたツールを導入することで、言語教育において困難とされた大規模教室で実施されるより効率的な言語授業を実現するため、様々な試行に挑戦する。
(この朗読自動評価システムは導入ができないというネットの声が多く、今月はこの設定

がうまくできず（うまく始動できないというユーザーの声が多く、実際に実現にはかなりの時間を要した）、時間をさいて導入の設定を試していました。）

- リクルートのスタディーサプリなどにも授業教材や課題があり、学校契約ができるので教師がクラス管理者となれば、教員の負担を大幅に減らすことができ、教育効果も高めることができる。あるいは、放送大学の活用なども検討したい。